

牧草フェストロリウムの 栄養的な特徴は？

《牛の餌づくり》

牛など草食家畜の主食は、牧草を刈り取って加工したサイレージや乾草といわれるものです。このサイレージや乾草を作るには晴れた日が2?4日続く必要がありますが、東北地域における餌づくりの時期はちょうど梅雨にあたるため、牧草の栄養価が高い時期での刈り取りがなかなかできません。そこで、高い栄養価を長い期間維持することのできる牧草の栽培が望まれています。

《フェストロリウム》

フェストロリウムは、栄養価の高いライグラス類の牧草と、1回の種まきで何年間も収穫ができるフェスク類の牧草を掛け合わせた雑種です。日本ではエバーグリーンという品種が市販されています。今回はこのエバーグリーンの栄養的な特徴について、東北地域で多く栽培されているオーチャードグラス（品種：キタミドリ）との比較で紹介します。

《フェストロリウムの栄養価》

東北農研センター（盛岡）内の畑でエバーグリーンとキタミドリを栽培し、生育段階毎の栄養価を調べました。可溶性炭水化物は良いサイレージを作るのに必要な成分で、牧草中に10%以上含まれた方が良くとされています。その可溶性炭水化物の量は、キタミドリでは穂が出る時期（刈り取りにちょうど良いとされている時期）を過ぎると急激に低下します。一方、エバーグリーンではその時期を過ぎてもなかなか低下せず、10%を下回ることはありませんでした（図1）。また、サイレージにした場合の栄養価（TDN含量）は、穂が出る時期を過ぎて花が咲き始めても65%前後あり、キタミドリに



比べて高く（図2）、この値は牧草サイレージの中ではとても良い品質のものであります。これらのことから、エバーグリーンは収穫に適した高い栄養価を維持する期間が長いことがわかります。つまり、お天気の良い時期を選んで収穫ができるエバーグリーンは、良質のサイレージや乾草を作りやすい牧草だと言えます。

畜産草地部 栄養飼料研究室

嶺野英子

TONO, Eiko



《これから》

今回はフェストロリウムのエバーグリーンという品種についてのみの結果ですが、フェストロリウムは雑種なので品種ごとに草の形や環境に対する反応が違います。現在、東北農業研究センターでは北東北地域により適したフェストロリウムの新品種の育成に向けて、様々な試験が行われています。これからは、フェストロリウムの色々な品種についても栄養的な特徴を把握し、北東北地域の気候に適し、かつ飼料としても有用な新しい品種の開発に役立てるための基礎データづくりをする必要があります。

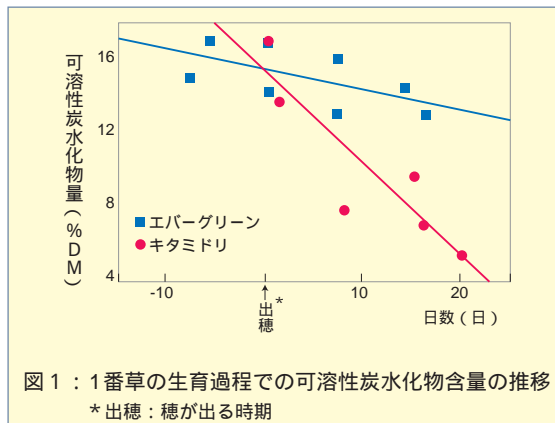


図1：1番草の生育過程での可溶性炭水化物含量の推移
*出穂：穂が出る時期

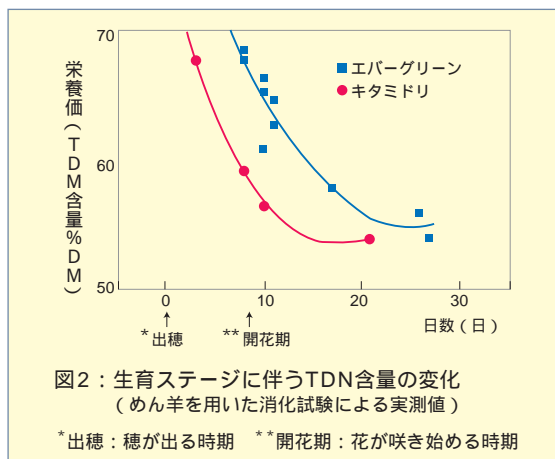


図2：生育ステージに伴うTDN含量の変化
(めん羊を用いた消化試験による実測値)
*出穂：穂が出る時期 **開花期：花が咲き始める時期